コロナ禍

農村と都市部 交流探る

浜松 オンライン会議で 専門家や市民が意見

コロナ禍での農山村と都市部の交流のあり方について、オンラインで意見交換する専門家＝浜松市中区の静岡文化芸術大

浜松市中山間地域の可能性を考える「2021まちむらリレーション市民交流会議」（市、静岡文化芸術大主催）が23日、オンラインで開かれた。新型コロナウイルス感染拡大が続く中での農山村と都市部の交流について、専門家や地域活性化に関わる市民らが意見を交わした。

認定NPO法人ふるさと回帰支援センターの嵩和雄副事務局長はコロナ禍での農山村移住について「リモートワークが進み転職を伴わない移住が可能になった」とした一方、「受け入れる側のよそ者に対する不安が進んでしまったのでは」と課題を挙げた。同大の舩戸修一教授は農山村から転出した子どもの帰省を生かした地域づくりに注目し、「コロナの収束後に備え、つながりを絶やさないことが重要」と述べた。

中山間地域の活性化に取り組む4団体も登壇し、活動報告した。

新型コロナ感染拡大防止のため、同大から動画投稿サイト「ユーチューブ」で配信した。

（浜松総局・土屋咲花）

静岡新聞

© 静岡新聞社　無断複製転載を禁じます